

第8章 社会連携・社会貢献

1. 現状の説明

(1) 大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を明示しているか。

【評価の視点】

○大学の理念・目的、各学部・研究科の目的等を踏まえた社会貢献・社会連携に関する方針の適切な明示

《大学全体》

1) 大学全体として、「社会連携・社会貢献に関する方針」を定め、ホームページに掲載している。学是「仁」と理念「不断前進」に基づき、国際的研究・教育拠点として、地域社会、産業界、国際社会等との幅広い連携活動を展開し、教育・研究・臨床の成果を広く社会に還元することにより、社会連携・社会貢献・国際協力を積極的に推進していくことを基本方針としており、「社会連携」、「産学官連携」、「国際社会への貢献」の項目について、それぞれ方針をまとめている。

(資料8-1 順天堂ホームページ 「情報公開(基本情報)」 「各種方針」 「社会連携・社会貢献に関する方針」)

《社会連携について》

1) 社会連携については、以下の方針を明示している。

- ・ 本学の教育・研究成果及び人的資源等を活用して地域社会との連携活動を推進し、地域社会の持続的発展に貢献するとともに、本学における教育研究活動の活性化を図ります。
- ・ 法人直轄組織として社会連携推進室、各キャンパスに社会連携推進室分室を置き、社会連携の推進を図ります。
- ・ 各キャンパスの所在する周辺自治体と連携協力して、医学、スポーツ健康科学、看護学、国際教養等の分野について、地域住民に対する公開講座・公開講演会・スポーツイベント・健康教室等を充実させ、生涯学習の要望に応えていきます。
- ・ 医学部附属病院群は、高度先進医療を積極的に実践するとともに、地域医療の中核病院としての役割を果たします。具体的には、各病院の特色に合わせて次のような取組みを推進します。①日常診療におけるスムーズな病病連携、病診連携の推進、②地域の医療従事者への医療情報の提供、③医師会や自治体主催の講演会等への講師派遣、④地域住民に最新の医療情報等の学習機会を提供する市民公開講座・研修会の開催
- ・ 高大連携活動を積極的に展開し、高校生に対して大学で学ぶ意義や大学での学修に必要な能力・態度についての理解を深めるよう取組みます。

2) 「学校法人順天堂社会連携推進室運営規程」において、社会連携に必要な事項を定めている。

(資料8-2 学校法人順天堂社会連携推進室運営規程)

《産学官連携について》

1) 産学官連携については、以下の方針を明示している。

- ・ 産学官連携活動を促進するため、研究戦略推進センターの体制を強化し、次の方策を実施します。
 - (1) 企業・他大学・研究機関等との連携活動に積極的に取組み、研究成果を社会に還元します。
 - (2) 寄付講座及び共同研究講座の設置や共同研究・受託研究のより一層の外部資金・人材受け入れに努め、教育研究の活性化・多様化を図ります。
 - (3) 研究倫理に関するルールに基づいた適正な研究の遂行と研究費の適正管理に努めます。

2) 「順天堂大学産学官連携ポリシー」において、教育と研究という基本使命に加えて、研究成果の社会還元を第三の使命とし、本法人における産学官連携活動の活性化を図る方針を明示

第8章 社会連携・社会貢献

している。2016(平成28)年7月1日付けで、研究推進センターを研究戦略推進センターに改称するとともに、同センター内に「産学官研究連携推進室」を設置し、推進・支援体制を強化した。

(資料8-3 順天堂大学産学官連携ポリシー)

(資料8-4 順天堂大学研究戦略推進センター管理運営内規)

- 3) 臨床研究については、臨床研究支援センターを設置し、「順天堂大学臨床研究支援センター運営内規」において、本学における研究成果に基づき、企業・研究機関等と連携して疾病、負傷等に対する新しい予防・診断・治療法や医薬品・医療機器等を開発し、社会に還元するために「健康研究(Health Research)」を推進するという方針を明示している。なお、2017(平成29)年3月31日付の組織変更に伴い、「順天堂大学臨床研究支援センター運営内規」を廃し、新たに制定した「順天堂大学医学部附属順天堂医院臨床研究支援センター管理運営規程」及び「順天堂大学革新的医療技術開発研究センター管理運営規程」において、後継組織の方針を明示している。連携協定締結先の企業・団体数は、延べ18機関となっている。

(資料8-5 順天堂大学臨床研究支援センター運営内規)

(資料8-6 順天堂大学医学部附属順天堂医院臨床研究支援センター管理運営規程)

(資料8-7 順天堂大学革新的医療技術開発研究センター管理運営規程)

(資料8-8 連携協定締結先一覧)

《他学との連携について》

- 1) 他学との連携については、他の大学及び高等学校との間で教育・研究等に関する連携協定を個別に締結し、そのなかで連携・協力に関する具体的な方針を定めている。なお、連携協定締結先数は、大学間は延べ46校、高大間は2校となっている。

(資料8-8 連携協定締結先一覧)

《国際社会への貢献について》

- 1) 国際社会への貢献については、以下の方針を明示している。

「順天堂大学国際化ビジョン」に基づき、以下の取組みを行います。

(教育活動の国際化)

1. 国内外の高等教育機関との連携を図り、若手研究者の海外派遣や学生の留学に向けたプログラムの充実と支援体制の強化を図ります。
2. 外国人教員や留学生の受け入れを拡大し、協働して学びあう教育環境の充実を図ります。
3. 異なる言語や多様な文化をもった国内外の地域やコミュニティとの教育的な連携を強化します。

(研究活動の国際化)

1. 国内外の大学・研究機関等との研究ネットワークを強化し、基礎臨床融合・異分野連携研究を始めとする共同研究を拡大することによって研究の高度化・深化を図ります。
2. 国際的研究拠点に相応しい研究環境の整備や臨床研究拠点としての大学病院群の機能の充実を図り、産学官の有機的な連携をもってイノベーションの創出に取り組めます。
3. 本学の独創的な研究成果等を国際学術誌等に速やかに公開するとともに社会への還元を進めるため国際シンポジウム等を積極的に開催します。

(学内体制の国際化)

1. 国際交流センターが中心となり、教育・研究の国際戦略を企画立案し、全学的な組織体制を強化します。
2. 本学に在籍した留学生・研究者等の海外ネットワーク組織の強化を図ります。
3. グローバル化に対応する教職員の育成を図ります。

4. グローバル・リーダーシップ育成推進奨学金により若手研究者等の海外留学等を推進し、国際的に活躍する人材の輩出に努めます。

2) 教員及び学生の国際交流や国際共同研究・教育等具体的な業務については、「順天堂大学国際交流センター運営規程」に基づき「国際交流センター」がその役割を担っている。

(資料8-9 順天堂大学国際交流センター運営規程)

(資料8-10 順天堂大学 国際化ビジョン)

《各学部及び研究科おける社会との連携・協力に関する方針について》

1) 各学部及び大学院研究科は、地域社会・国際社会への協力方針を個別に定めており、それぞれのシラバス、学生募集要項やホームページ等に公表・明示している。

(資料8-11 各学部・研究科の地域社会・国際社会への協力方針)

(2) 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

【評価の視点】

- 学外組織との適切な連携体制
- 社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究の推進
- 地域交流、国際交流事業への参加

《社会連携について》

- 1) 自治体との連携については、東京都文京区をはじめ、千葉県内では佐倉市、成田市、酒々井町、白井市、印西市、習志野市、栄町、浦安市、富里市の9自治体、静岡県三島市、埼玉県川口市、愛知県東郷町及び愛媛県砥部町と連携協定を締結し、教育の振興、スポーツの発展、健康支援など地域社会の発展に寄与することを目的とした取り組みを実施している。
- 2) 連携協定を締結した自治体とは、社会連携推進室及び各キャンパスの分室が連絡を取り合い、必要に応じて連絡協議会等の場を設け、自治体の要望等に対応した。各キャンパスを拠点に公開講座等への講師派遣、自治体イベントへの参加等による地域住民との交流、地域貢献活動、スポーツ教室等の開催が活発に行われ、地域に根付いた事業となっている。

《産学官連携について》

1) 産学官連携については、2013(平成25)年度から2014(平成26)年度にかけてCOI-T(トライアル)拠点として採択された文部科学省「研究成果展開事業 センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム」の活動成果の評価が実施され、本学と立命館大学との連携拠点がCOI拠点として昇格することが決定した。本プログラム(センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム)では、ハイリスクではあるが実用化の期待が大きい異分野融合・連携型の基盤的テーマに対し、集中的な支援を行い、産学が連携する研究開発チームを形成する。2016(平成28)年5月、立命館大学大阪茨木キャンパスにおいて、独立行政法人科学技術振興機構によるサイトビジット(拠点訪問)が実施され、本学及び立命館大学からプロジェクトの進捗状況について報告を行った。同年10月、立命館大学びわこ草津キャンパスにて「運動フェスティバル」、更には同年12月、紀尾井カンファレンスにてシンポジウム「超スマートになるための健康イノベーション」を開催し、当拠点の取り組みを一般に向けて公開した。また、2016(平成28)年2月にリリースしたロコモティブシンドローム研究用iOSアプリ「ロコモモニター」は、数千人の調査結果を得た。その他、(株)東急スポーツオアシスにてロコモ予防

第8章 社会連携・社会貢献

セミナー、東急不動産(株)の施設(ダイエー赤羽店らくティブ)にてロコモ度チェック体力測定会などを行った。

(資料8-12 順天堂ホームページ「センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム」)

- 2) 2015(平成27)年7月31日、国立研究開発法人医療基盤・健康・栄養研究所と相互の研究交流を推進することにより、健康と栄養に関する学術及び科学技術の発展に寄与するための連携協定を締結した。また、同日、国立大学法人鹿屋体育大学と相互に連携及び協力し、体育・スポーツ分野における教育研究を発展させるとともに、本分野において我が国の先導的な役割を果たすための連携協定を締結した。3者間の共同研究を開始している。

(資料8-13 学校法人順天堂と国立大学法人鹿屋体育大学連携協定書)

(資料8-14 順天堂大学と国立研究開発法人医療基盤・健康・栄養研究所連携協定書)

- 3) 個別企業・団体等との間においても、次のとおり連携協定を締結し、それぞれの分野において共同研究等の取り組みを展開している。

- (1) 独立行政法人理化学研究所：相互の研究能力と人材を活かし、国内外の学術及び技術の振興と有為な人材の育成に資することを目的として、連携基本協定を締結(2012(平成24)年4月26日付)。本協定に基づき、2012(平成24)年8月より理化学研究所のCAGE(Cap Analysis of Gene Expression)法を用いたがんバイオマーカーと臨床応用に関する共同研究が実施されている。

(資料8-15 順天堂大学と理化学研究所が包括的基本協定)

- (2) 日立製作所：医療実績、臨床現場からのニーズと企業の総合的な技術力を結びつけることによって、医療・ヘルスケア分野の先端医療機器や情報システムなどの開発を行うことを目的として、連携基本協定を締結(2012(平成24)年10月1日付)。基本協定に基づき、再生医療、超音波、画像診断などの分野の共同研究が2013(平成25)年10月より実施されている。

(資料8-16 順天堂大学と日立が包括的な産学連携の協定を締結)

- (3) 花王株式会社：「健康を科学する」という共通テーマのもと、両組織の連携・協力関係を推進するために、研究包括契約を締結(2015(平成27)年6月2日付)。本契約に基づき、互いの研究知見や施設を活用して、医療・健康分野における基盤研究の連携を強め、現場のニーズに即した革新的な技術開発とその早期実用化を推進し、グローバルなイノベーションの創出を目指す為の共同研究が開始されている。

(資料8-17 順天堂大学と花王が産学連携の研究包括契約を締結)

- (4) 東急不動産株式会社：2015(平成27)年10月29日付で包括的連携協定を締結した。本協定により、本学と東急不動産は互いが有する資源を有効に活用し、相互の発展を通じて我が国が全世界に先駆けて直面する超高齢社会の課題を解決する新たなプログラムを構築し、健康長寿社会の実現を目指す。既に本学では、東急不動産の協力を得て、寄付講座「ジェロントロジー：医学・健康学応用講座」を設置し、学問的なアプローチから、楽しく、寛げる、動ける、語らう、食べることの可能な住空間システムのハード面・ソフト面の開発を進めている。

(資料8-18 学校法人順天堂と東急不動産株式会社が包括連携協定を締結)

- 4) 2014(平成26)年6月23日、一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織

委員会と、連携協定を締結しており、大会に向け様々な取り組みを進めている。具体的な事例として、公開講座、事前キャンプの受け入れを想定した大学施設の開放、オリンピック・パラリンピックに関わる体験会やスポーツ教室の実施等がある。オリンピック選手への育成・強化、監督・コーチ及びサポートスタッフの輩出、キャンプ地誘致活動への協力・支援などの検討を行っている。

(資料8-19 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における大学連携「2016年度活動実績報告書」)

- 5) 奨学目的の寄付を有効に活用した寄付講座及び共同研究の基盤となる共同研究講座を設置して、教育研究の豊富化や活性化を図り、人材を養成するとともに研究成果を社会に還元している。2016(平成28)年度には、20の寄付講座と3の共同研究講座が設置されている。

(資料8-20 平成28年度 事業報告書 「10. 寄付講座・共同研究講座」)

- 6) 臨床研究については、「臨床研究支援センター」が文部科学省がんプロフェSSIONナル養成基盤推進プラン採択事業・次世代先導的がん研究者養成コース、広島大学大学院医歯薬保健学研究科等との連携大学院を通じて医師・コメディカル・がん研究者に対する生物統計教育、臨床試験デザインに関する教育を行っている。また、多施設共同研究者主導型臨床研究の支援を行っている。

(資料8-21 臨床研究支援センター月例会議資料2017年3月教育・研修室)

《他学との連携について》

- 1) 他の大学及び高等学校との間においても、次のとおり連携協定を締結し、それぞれの協定に基づき、教育・研究等の推進に取り組んでいる。

- (1) 早稲田大学：医学と建築学の融合を図り、次世代環境医療、エコキャンパス・ホスピタル及び病院建築に関する研究を推進するため、2009(平成21)年3月に研究協力協定を締結した。共同研究は主に4つのテーマに沿ったワーキンググループを中心に共同研究を進めている(高層病院の安全・避難、エコ技術、感染環境制御、環境発がん制御)。本学で実施している新病棟の建築に研究成果を活かすため、同大学と本学の共同研究に清水建設技術研究所も共同研究契約を締結のうえ参加している。

(資料8-22 学校法人順天堂と学校法人早稲田大学との共同研究に関する覚書)

(資料8-23 次世代環境医療研究会組織図)

(資料8-24 共同研究契約書(エコ技術))

(資料8-25 共同研究契約書(高層病院の安全))

(資料8-26 共同研究契約書(病棟の避難))

- (2) 学校法人女子美術大学：2015(平成27)年5月20日付で連携・協力に関する基本協定を締結した。同校の創立者の一人で、校主であった佐藤志津は順天堂 第二代堂主佐藤尚中の実の娘であり、第三代堂主 佐藤進の妻であった。佐藤志津が亡くなった後は佐藤進が校主・校長に就任し、その後、第四代堂主 佐藤達次郎が同校の理事長、学長を務めるなど、同校とは歴史的に強い結びつきがある。芸術・癒し・デザインの分野に秀でた同校と、医療・健康・スポーツの分野に強みを持つ本学が協定を結んだことで、ヒーリングアート・癒し・スポーツメンタルなどを切り口とした様々な分野、領域での連携協力や新たな取り組みが期待される。

(資料8-27 学校法人順天堂と学校法人女子美術大学が連携・協力に関する基本協定を

第8章 社会連携・社会貢献

締結)

- (3) 星薬科大学：2015(平成27)年9月29日付で相互の教育・研究及び社会貢献活動を通して大学間交流の推進を図るため、包括的連携に関する協定を締結した。両大学の強みを活かし、教育・研究及び社会貢献活動の分野で包括的に緊密な協力関係を築き、連携を深めることにより、学生教育の質的向上、教職員の質的向上を図り、大学間の交流等を行うことで、人材の育成や教育・研究活動の充実、活力ある地域社会への貢献に寄与していく。

(資料8-28 順天堂大学と星薬科大学が学術交流に関する包括的連携協力の基本協定を締結)

- (4) 電気通信大学・星薬科大学：2016(平成28年)12月1日付で、3大学の「URA」University Research Administrator」人材の交流を契機とした、学術連携交流に関する3大学連携協定を締結した。各大学の異なるブランド領域(順天堂大学における医学、電気通信大学における工学、星薬科大学における薬学)を、URA人材を活用して異分野連携を促進するための組織的連携関係を構築する。

(資料8-29 国立大学法人電気通信大学と順天堂大学との学術連携交流協定書)

(資料8-30 電気通信大学・順天堂大学・星薬科大学による学術連携交流協定締結)

- (5) 立命館大学：2015(平成27)年10月6日付で、研究・教育内容の充実と学術・文化の発展及び科学技術の高度化を図ることを目的とした学術交流に関する包括協定を締結した。両大学は現在、文部科学省と科学技術振興機構が推進する「革新的イノベーション創出プログラム」(Center of Innovation=COI)において、「スポーツ・健康」と「セルフケア・医療」の融合による健康維持・増進を図り全ての人々をアクティブな状態へ誘導する「アクティブ・フォー・オール」の実現を目指した研究を共同で進めている。今回の協定締結により、両大学の保有する教育・研究資源の更なる有効活用を図ることで、我が国の健康・幸福寿命の伸延を目指した取り組みを加速させていく。

(資料8-31 順天堂大学と立命館大学が学術交流協定を締結)

- (6) カザン連邦大学・理化学研究所：2015(平成27)年10月7日付で、医科学研究及び先進医療の分野における協力覚書を締結した。この協力覚書の締結により、参加3機関の有する研究開発力、人材、臨床サンプル・情報などのリソースを活かした連携・協力を推進し、予防医療、先進医療の分野における新たな価値創造、イノベーション創出が期待される。日露両国のみならず、開発した新技術や知見を広く国際社会で実用化し、地球規模の課題解決を目指す。

(資料8-32 理化学研究所およびカザン連邦大学と協力覚書を締結)

- (7) 岡山大学：2015(平成27)年12月10日付で、包括的連携・協力協定を締結した。大学としての設置形態は異なるものの、両大学がそれぞれの強みや利点を活かして連携協力し、高いレベルの教育・研究・医療を通じて更なる人材育成と国内外での社会貢献を進めていく。当面は、研究及び産学官連携の推進及び発展に関することを主なテーマとし、相互の大学の研究体制や研究活動等について情報交換等を行い、具体的な内容を検討していく。

(資料8-33 順天堂大学と岡山大学が連携・協力に関する包括的協定を締結)

- (8) 明治大学：2015(平成27)年12月18日付で、教育・研究活動の交流と連携の推進を目的とした大学間交流に関する包括協定を締結した。本学と明治大学は、2002年7月から首都大学院コンソーシアムでの単位互換協定や教員の連携による共同研究などの取組み

第8章 社会連携・社会貢献

を行っている。本協定の締結により、これらの連携をさらに推進・発展させ、教職員及び学生の交流や施設の相互利用などを通じて両大学の教育研究力のさらなる向上をはかるとともに、医学部を有する本学と法・理工・農学部を有する明治大学が互いの長をを活かして社会に貢献していくことを目指す。図書館の相互利用や明治大学公開講座「江戸・明治期の医学・医療の歴史」への講師派遣を行っている。

(資料8-34 順天堂大学と明治大学が包括協定を締結)

- (9) 東京藝術大学：2016(平成28)年3月23日付で、教育研究・人材交流・社会貢献・国際交流等の一層の充実と質の向上を図り、学術研究の発展と有為な人材の育成に寄与することを目的とした連携・協力に関する包括協定を締結した。音楽セラピー等の共同研究の推進や、解剖・病理分野と美術解剖学における連携、順天堂医院におけるホスピタルアート・ヒーリング アートの展開など、両大学の保有する世界最高水準の教育・研究資源の有効活用を図るとともに、「医学・医療と芸術の融合」による相乗効果を最大化することで、医学・芸術両分野の更なる発展を目指している。2016(平成28)年8月7日には、リオデジャネイロ・オリンピックに合わせて開催されたイベント「Summer Arts Japan 2016 (協力：(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会)」の第二部では、スポーツ、芸術、科学の融合をテーマに、東京藝術大学と本学のコラボレーションにより、音楽とトップアスリート共演が実現した。本学の体操競技部から3名が出演した。2017(平成29)年2月17日(金)には、コンサート・シンポジウム「それぞれの美 Sports Arts Science」を共催した。コンサートには体操競技部から2名が出演し、シンポジウムには、本学卒業生で客員教授の鈴木大地スポーツ庁長官がパネリストとして参加した。

(資料8-35 順天堂大学と東京藝術大学が連携・協力協定を締結)

(資料8-36 Summer Arts Japan 2016 ～ 順天堂大学 × 東京藝術大学 ～)

(資料8-37 コン서트・シンポジウム「それぞれの美 Sports Arts Science」 ～ 順天堂大学 × 東京藝術大学 ～)

- (10) 大妻女子大学：2016(平成28)年7月7日付で、相互の教育・研究活動の交流と連携・協力の推進を通して、わが国の教育・研究の一層の発展に資することを目的として連携協定を締結した。
- (11) 和洋女子大学：2016(平成28)年11月30日付で、相互の教育・研究活動の交流と連携・協力の推進を通して、わが国の教育・研究の一層の発展に資することを目的として連携協定を締結した。
- (12) 大学院の連携について本学大学院医学研究科は、従来より、複数の大学院と両大学院間の交流と協力を推進し教育研究の充実を図るため、大学院学生が相互に必要な研究指導を受けることを目的とした特別研究学生交流協定を締結している。2015(平成27)年11月11日に東京大学、2016(平成28)年3月25日に横浜市立大学大学院医学研究科と、それぞれ特別研究学生交流協定を締結した。
- (13) 高大連携については、2015(平成27)年3月に昭和第一高等学校と、同年8月に神田女学園高等学校と、それぞれ教育提携協定を締結した。相互の交流を通じ、生徒の視野を広げ学習水準を高めるとともに、教育内容等への理解を深めるなど、大学教育と高等学校との連携を図り、互いの教育の更なる活性化を目指していく。

(資料8-38 昭和第一高等学校との教育連携協定締結)

第8章 社会連携・社会貢献

(資料8-39 神田女学園高等学校との教育連携協定締結)

《国際交流について》

1) 国際交流については、大学を挙げて積極的に推進し、2017(平成29)年3月末現在の大学間における国際交流協定校は、21カ国/地域・51校となっている。講座・研究室を通じて、海外研修が可能な海外交流校は24カ国/地域・165校である。

(資料8-40 大学協力協定締結状況)

(資料8-41 講座・研究室を通じての紹介が可能な海外研修施設一覧(2016年版))

2) 学外組織の JICA や日本皮膚科学会等の支援を得て、タイ国・皮膚病学ディプロマコース派遣事業を Institute of Dermatology (IOD) (タイ・バンコク)において1976(昭和51)年から開催している。現在11ヶ月のコースで運営され、これまで約1,000名の修了者・専門医を輩出している。

3) 海外の大学等との連携活動実績は、次のとおりである。

(1) 北京大学—順天堂大学国際学術シンポジウムを、国際交流協定に基づいて実施している。両大学から精鋭の研究者が国際的にトップレベルの学術的交流を果たし、両大学での共同研究を更に進展させるため、2010(平成22)年、2011(平成23)年及び2016(平成28)年に順天堂大学で、2012(平成24)年及び2015(平成27)年に北京大学でシンポジウムを開催している。今回は北京大学での開催を予定している。

(資料8-42 5th International Academic Joint Symposium, 2016
Juntendo University-Peking University)

(2) 東京医科歯科大学との共同プログラムとして、両校の留学生の日本文化交流や日本語教育について2013(平成25)年から相互に協力体制を整備し実施している。

(資料8-43 東京医科歯科大学 順天堂大学 節分の会 案内)

(3) 中国・北京大学方副医学部長一行、アメリカ・MDACC・NASAのSpace Suit Art Project、ロシア・カザン連邦大学一行や中国・吉林大学孫基礎医学院長一行等の来訪・表敬訪問が2016(平成28)年度で24件あった。

(資料8-44 平成28年度 表敬訪問・行事一覧)

4) 2014(平成26)年度に、外国人学生及び短期研修者の獲得を視野に入れ、従来の英語版ホームページ(トップページ)のリニューアルを行った。順次既存の内容についてもデザインを含めて更新を進めたところ、本ページ公開直後より、短期研修を希望する海外の学生・医師からの本学に関する照会が数多く寄せられ、2016(平成29)年度の短期研修受入数は261名と引き続き前年度から大幅に増加した。また、参加者の出身国も広がりを見せている。今後受入数は受入講座の負担も考慮し、ある程度落ち着くものと見られるが、参加者が帰国した後の波及効果により、申請者の背景はより多様化するものと見込まれる。

(資料8-45 外国人短期研修受入数の推移(過去5年間))

(資料8-46 短期研修者の所属機関(国/地域)の多様化)

《各学部及び研究科における社会連携活動について》

1) 公開講座・シンポジウム等の開催、学校施設の開放、見学会の実施、ボランティア活動等、様々な分野で積極的に展開している。

(資料8-47 各学部・研究科・附属病院における社会連携の取組み)

2) 本郷・お茶の水キャンパスのセンチュリータワー17階にある「日本医学教育歴史館」は、順

第8章 社会連携・社会貢献

天堂創立 175 周年記念事業の一環として開設され、日本の医学教育の歴史を資料等により検証できる本邦初の常設展示施設である。一般公開（火・水曜日）しており、見学者は年間 1,000 名を超えている。

（資料 8-48 順天堂ホームページ 「日本医学教育歴史館」）

（3）社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。

【評価の視点】

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

《社会連携について》

- 1) 社会連携に関する具体的な事業計画の策定及び各キャンパスにおける取組状況等の点検・評価等については、学長を委員長とする社会連携推進委員会で審議している。

（資料 8-49 社会連携推進委員会議事録）

《産学官連携について》

- 1) 研究戦略推進センター及び臨床研究支援センターでは、企業や研究機関等との共同研究を推進するため、担当者を配置した管理を行っている。臨床研究支援センター月例会議において、産学官連携の成果となる知財や連携共同研究等の進捗状況が担当者から報告され、評価及び改善について検証している。

（資料 8-50 臨床研究支援センター月例会議資料 2017 年 3 月連携推進室）

- 2) 鹿屋体育大学、国立開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所とは、スポーツ健康医科学研究所での打ち合わせ会及び関連学会時に、進捗状況、評価及び改善について検証している。

《他学との連携について》

- 1) 研究成果を社会に還元する目的で締結された連携協定については、それぞれ定期的にシンポジウムや報告会等を開催することで、活動の定期的な検証を行っている。

《国際交流について》

- 1) 毎月開催される JUIIC (Juntendo University International Center) 教育委員会において、教員及び学生の国際交流や国際共同研究・教育等具体的な業務の検証（各留学生の奨学金の受給状況、学生の生活に係る検討事項の共有、来訪団体の目的確認と適切な対応を実施しているかの検証等）を行っている。

（資料 8-51 第 85 回国際交流センター教育委員会議事録）

《各学部及び研究科における社会連携活動について》

〈1〉 医学部・大学院医学研究科

- 1) 東京都、新潟県、千葉県、埼玉県の各地域卒学生を対象に、2016(平成 28)年 7 月 5 日、11 月 15 日、「地域卒学生」向けの説明会及び「地域卒学生」として大学を卒業した臨床研修医からの報告会を開催した。報告会を開催することで方針に沿った貢献ができていないか検証している。「地域卒学生」としてのキャリアパスについての説明や情報交換を行い、将来、各地域での地域医療に貢献するための現状把握やキャリアプランについて考察するよう地域卒担当教員が地域卒学生へ指導している。

（資料 8-52 平成 28 年度 地域卒学生ユニット説明会(平成 28 年 7 月)）

（資料 8-53 平成 28 年度 地域卒学生の卒前・卒後報告会(平成 28 年 11 月)）

- 2) 大学院医学研究科に関しては、大学院医学研究科委員会において各種連携協定の締結・更新

第8章 社会連携・社会貢献

の審議を行なっている。また、学外施設学修申請に基づく学外組織との連携による研究指導についても、当該学生の研究内容や期間等を確認のうえ、可否の審議を行なっている。

(資料8-54 大学院医学研究科委員会議事録(平成28年6月))

〈2〉 スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科

1) 4月と10月に周辺自治体との実施事業に関するヒアリングを行っている。そのヒアリング時には、周辺自治体の各担当部署の職員も参加し、次年度事業の実施等を自治体と共に点検・評価を行っている。

(資料8-55 親子スポーツ教室(酒々井町・印西市) 打合せ記録(平成28年5月))

2) 社会連携室分室会議を実施している。会議の中で、周辺自治体の事業の取り組みに対する点検を行い、周辺自治体へ還元するような体制を取っている。

(資料8-56 平成28年度 順天堂大学生涯学習公開講座(親子スポーツ教室) アンケート結果)

〈3〉 医療看護学部・大学院医療看護学研究科

1) 学生ボランティアをはじめ各クラブの代表者を含めた自治会との連絡会議を定期的に開催し、地域社会・国際社会への協力方針に基づき、活動状況について評価・検証を行っている。

(資料8-57 平成28年度 自治会との連絡会議 議事録)

〈4〉 保健看護学部

1) 地域の人々の保健衛生・健康保全に貢献できる看護職者育成状況を、卒業時の看護師・保健師の国家試験合格状況で点検している。

2) 地域の保健・医療・福祉の分野における生涯教育の一翼を担うよう、公開講座等の開催により教育研究成果を還元している。公開講座参加者アンケートを分析し、事業の評価としている。参加者は保健・医療・福祉の分野関係者と一般住民、居住地は静岡県中部から東部・賀茂地域から参加があり、講座内容については「役に立った」が83%であった。このことから保健・医療・福祉の分野における生涯教育の場になっていると考える。

〈5〉 国際教養学部

1) 国際社会へ貢献する人材育成を目的として教育を行っているが、完成年度前のため教育途上であり、今後、成果の検証に向けて準備を進めて行く。

2. 点検・評価

[基準8]

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、社会連携・社会貢献に関する方針を明確にし、その方針に沿って社会との連携に配慮し、教育研究成果を広く社会に還元しなければならない。

●基準8の充足状況

地域社会との連携は「社会連携推進室」、研究機関との連携は「研究戦略推進センター」及び「臨床研究支援センター」、国際交流・国際化は「国際交流センター」がそれぞれ中心的な役割を果たし、全学を挙げて推進している。自治体との連携協定締結も進み、教育研究成果を社会に還元する各種取り組みが行われている。公開講座・シンポジウム開催や講師派遣も積極的に行われている。他学、学外研究機関、企業等との連携も進み、特許出願等の成果が出ている。また、医学部附属病院を通じた地域への貢献も果たしている。以上のことから、同基準を満たしている。

①効果があがっている事項

《社会連携について》

1) 社会貢献については、本学の特性を活かし、研究成果の社会的な還元という観点から公開講座やシンポジウム・学術講演会等を数多く開催している。医学関係では最新の医療情報や技術等の提供があり、スポーツ関係では子供やスポーツに興味のある青少年等のための運動プログラム、高齢者にはロコモティブシンドローム予防のプログラムを行い、看護関係では市民参加型の体験学習等を行っている。また、社会連携事業に関して、社会連携推進室のホームページより積極的に情報発信をしており、閲覧した団体等からの講師派遣依頼も増加傾向にある。

(資料8-58 社会連携推進室ホームページ)

2) 2020(平成32)年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、自治体をはじめとする関係団体等との連携を含め、健康総合大学として全学的に意欲的に取り組んでいる。例として、オリンピックを派遣しての講演やトップアスリートによる運動教室、各地で開催されているスポーツイベント、パラスポーツ普及のための体験会への学生の参加等が挙げられる。

(資料8-58 社会連携推進室ホームページ)

《産学官連携について》

1) 文部科学省「研究成果展開事業センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム」において、2015(平成27)年度から立命館大学と連携し、空間価値を変える新しいスポーツ健康技術(スマートウェア技術、空間シェアリング技術、運動誘導/継続技術)と、寝たきりゼロを目指す「ロコモの見える化と予防法の開発」を行っている。

2) 独立行政法人理化学研究所との基本協定に基づき実施しているがんバイオマーカー共同研究の成果として、呼吸器外科のがんバイオマーカー研究が、BMC Cancer, 2016 Sep 29;16(1):760.に掲載された(2016年9月29日)。第4回理研・順天堂共同研究発表会を2017(平成29)年1月20日に開催して共同研究と連携活動の成果を発表し、共同研究者間の情報共有を行った(於順天堂大学センチュリータワー南12階教室)。参加者は69名であった。

(資料8-59 BMC_Cancer29_16_760_2016)

(資料8-60 第4回理研・順天堂共同研究発表会ポスター)

3) 株式会社日立製作所との連携基本協定に基づき実施している共同研究では、昨年度の論文2報に続き、放射線医学講座・老研センターの共同研究がMagnetic Resonance in Medical Sciences, Vol. 15 (2016) No. 4 p. 416-421に掲載されている(2016(平成28)年3月30日)。R&D分科会、国際交流分科会、人材交流分科会を軸とする体制のもと、包括連携活動を推進している。R&D分科会活動としては、上記共同研究の他、日立情報制御ソリューションズ社員による順天堂Medical & Technology Simulation Center見学を2016(平成28)年7月8日に行っている。今年度の共同研究の総括として、研究担当者による共同研究成果報告会を2017(平成29)年3月30日に開催している。国際交流分科会・人材交流分科会活動については国際教養学部との以下の連携活動が実施されている；道谷先生の1年生向け「キャリアデザイン演習Ⅱ」の学生3名による企業訪問(2016(平成28)年11月)；石黒先生の多文化チームのリーダーシップに関する研究について日立の多文化チームのマナー

第8章 社会連携・社会貢献

ジャーを研究対象者として、インタビューに協力し、研究成果を、異文化コミュニケーション学会(2016(平成28)年9月)、多文化関係学会(2016(平成28)年10月)、映像から学ぶトランスカルチュラルリティ・ワークショップ(2017(平成29)年2月)に発表;大野先生に(株)日立超 LSI システムズの多言語音声翻訳ソリューションを紹介(2016(平成28)年11月)。この他、中国国家発展改革委員会 20 名によるさくらキャンパス見学が 2017(平成29)年2月に行われている。16日に順天堂大学留学生による日立医療機器ショールームの見学と留学生9名(中国、インド、コンゴ)に対する自国医療ヒアリングを行った。2015(平成27)年10月22日に中国政府関係者(中国発改委)20名によるさくらキャンパスの見学が行われた。

(資料8-61 Magn_Reson_Med_Sci15_4_416-421_2016)

(資料8-62 共同研究成果報告会 2016年度プログラム)

(資料8-63 順天堂・日立包括連携ステアリング会議 2017年3月抜粋)

4) 花王株式会社との研究包括契約に基づく取り組みとして、昨年度実施した技術説明会に基づき、下記の3件の共同研究契約と1件の研究指導契約が締結され、研究が進捗している。この他に包括契約締結以前に開始された共同研究1件が実施されている。

- ・共同研究「パーキンソン病および関連疾病の歩容解析」(研究代表者:神経学大山彦光、平成28年6月1日締結)
- ・研究指導「アレルゲンの皮膚を介した免疫メカニズムの解析」(研究代表者:アトピーセンター高井敏朗、平成28年9月5日締結)
- ・共同研究「HYBIDに着目した変形性膝関節症関節軟骨細胞外基質分解物と分解因子の発現解析、及びHYBIDノックアウトマウスの解析」(研究代表者:整形外科岡田保典、平成28年10月13日締結)
- ・共同研究「水溶性高繊維食摂取での潰瘍性大腸炎発症抑制の機構解析」(研究代表者:消化器内科渡辺純夫、平成28年12月5日締結)

(資料8-64 第2回順天堂・花王連携協議会アジェンダ 2016年11月26日抜粋)

《他学との連携について》

1) 国立研究開発法人医療基盤・健康・栄養研究所、国立大学法人鹿屋体育大学との連携協定に基づき、共同研究の成果として論文を掲載したほか、国立研究開発法人医療基盤・健康・栄養研究所との連携協定に基づき、同研究所の研究員が本学客員教授に就任し、教員間の人的交流を行った。

(資料8-65 「掲載論文 Heritability estimates of muscle strength-related phenotypes:A systematic review and meta-analysis」)

2) 東京藝術大学とは、連携協定に基づき、リオデジャネイロ・オリンピック関連イベント「Summer Arts Japan 2016」、コンサート・シンポジウム「それぞれの美 Sports Arts Science」を開催しており、目的に則した連携・協力が実現できている。

3) 早稲田大学との共同研究では建築学と医学の融合を図るとともに、医療現場の視点も取り入れて研究を進めてきたことから、より実用的な成果を上げることができた。順天堂医院では、国内初となる非常用エレベーターを避難誘導に活用できる「高層病棟避難安全システム」の適用を受けたほか、エコ技術、感染制御技術、病室環境改善および医療施設の災害対策などで多くの成果を上げた。これらの研究成果を社会に還元すべく、早稲田大学との共催により次世代環境医療シンポジウムを開催してきた。医療、建築、製造業界を中心に参加者は両シ

第8章 社会連携・社会貢献

ンポジウムとも 350 名を超えた。B 棟 I 期竣工後もワーキンググループにおいて感染制御技術などの共同研究を進めている。

開催時期	テーマ
2011（平成 23）年 6 月	エコロジーと耐震強度を考えた新世代病院と非常時への備え
2013（平成 25）年 1 月	安心と癒しとエコロジーに配慮した最新の病院 —最新の ICT 化病院とその理想像—

（資料 8-66 2014（平成 26 年）2 月 21 日（金）東京新聞「東京消防庁新基準適用第 1 号 順天堂の新病棟で訓練」）

《国際交流について》

- 1) 国際交流センター長を中心として、その下で本学の国際交流に関する運営母体の JIIC 教育委員会が毎月開催されている。委員会では、審議事項のほかに、定型的な報告事項として、国際交流協定校情報、来訪団体、海外からの医学部短期研修、留学生状況、奨学金、英語版 HP、文化教育活動、病院診療支援状況等の報告等を行っている。本学の国際交流に関する運営母体として有効に機能している。

《各学部及び研究科における社会連携・社会貢献活動について》

- 1) 大学院医学研究科では、2016（平成 28）年度の博士課程入学志願者の 3 割以上が社会人であり、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」採択により 2013（平成 25）年度に新設された「次世代先導的がん研究者養成コース」は、がん治療認定医の申請資格の単位の一部として認められるなど、すでに社会の中で活躍する医師の生涯学習の機会として十分な役割を果たしている。「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」による市民公開講座や国際シンポジウムには、多数の参加者を得ており、教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動を行っていると言える。また、連携大学院協定を締結している 3 研究機関より、2016（平成 28）年度も 12 名の入学者があった。毎年度、各研究機関から入学者を迎え入れており、医学教育と医学研究の連携に貢献できている。
- 2) スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科では、社会連携推進室分室の設置により、周辺自治体との連携が進んでおり、市町村との公開講座・学術支援・スポーツイベント・学生ボランティア派遣等の活動が増加している。中学校・高等学校の部活動に対する体育施設開放に加えて、2011（平成 23）年度からは地域の小学生を対象としたサッカー・体操・バレー等の教室を開講しており、好評を博している。周辺自治体に共通したテーマとして「子どもたちの体力向上」、「中高齢者への健康指導・体力指導（ロコモ対策）」などの要望が多く、多くの自治体が抱えている問題に対し、本学部が中心的な役割を果たしている。
- 3) 医療看護学部・大学院医療看護学研究科では、定期的に健康増進や保健衛生に関するテーマで公開講座、オープンスクールを開催し、教育研究の成果を社会に還元している。
- 4) 保健看護学部では、2014（平成 26）年 1 月、本学部と三島市との間で、文化・医療・教育・学術など様々な面で相互に協力し、地域の活性化、産業の発展を目的として連携協働協定を締結して以来、学生も、積極的に地域に関わろうという意識をもってボランティア活動に参加している。

（資料 8-67 三島市との協定書）

②改善すべき事項

《社会連携について》

- 1) 多くの自治体に共通した課題として、子どもや高齢者の健康・体力指導に関するものがあるが、周辺自治体の連携や自治体内の部署連携が不足している。大学が中心となり、コンソーシアムのような事業展開が期待される。

《産学官連携について》

- 1) 独立行政法人理化学研究所との連携共同研究の進捗・研究成果として出願した特許については、実用化には至っていない。1 共同研究から論文 1 報が発表されたが、他の共同研究から論文発表を通じての社会への研究成果情報の提供は、まだなされていない。
- 2) 株式会社日立製作所との連携共同研究の進捗・研究成果については、2 共同研究から昨年度の論文 2 報に続き、1 報が報告されている。他の共同研究からは、未だ論文を通じて社会への研究成果情報の提供はなされていない。また、実用化に至る成果も得られていない。
- 3) 花王株式会社との研究包括協定に基づく共同研究については、未だ論文を通じて社会への研究成果情報の提供はなされていない。また、実用化に至る成果も得られていない。

《国際交流について》

- 1) 英語版 HP の拡充に加え、協定校との共同プログラム実施によって、多くの短期留学生・外国人研究者が本学に来訪している。それに伴い、宿舎の確保が困難な状況も生じていることから、新規来訪希望者の受入時期や人数についてより一層慎重に調整する必要がある。
- 2) 受入留学生数の増加に伴い、病院を出入りする際のセキュリティーに関する指導をよりきめ細かいものにする必要が生じている。指導方法・内容について、病院の担当部門とも情報を共有しながらプログラムを補充することが求められている。
- 3) 施設見学者の増加に伴い、病院を出入りする際のセキュリティー要件（体調管理・院内での注意事項等）を、留学生と同様に整備していく必要がある。
- 4) 在籍中の留学生・外国人研究者について、サービスの充実に加え、昨年度からは離籍した後のフォローアップにも力を入れ始めている。今後離籍後の連絡先確認に加えて、現在試験的に行っている当センターからの連絡（近況報告等）内容を拡充し、更なる関係性の構築を進める必要がある。

《各学部及び研究科における社会連携・社会貢献活動について》

- 1) 大学院医学研究科における連携大学院（国立がん研究センター等）については、毎年一定数の入学者が確保できており、運営状況は順調と言えるが、今後は共同研究の実施等、更なる連携強化に向けた検討を行なう必要がある。

（資料 8-68 大学院医学研究科委員会議事録(平成 29 年 2 月)）

3. 将来に向けた発展方策

①効果があがっている事項

《社会連携について》

- 1) 本学の特性を活かし、引き続き、公開講座・シンポジウム・学術講演会等を開催することで、教育・研究成果の社会への還元を図っていく。小・中学生のアスリート育成及び高齢者の健康増進・支援に対するニーズが高いことから、今後も継続して実施できるよう全学的な取り組みを行っていく。また、社会連携推進室の機能強化によって、従来の事業内容の充実、規

第8章 社会連携・社会貢献

模の拡大及び新規連携事業への取り組み等の推進を担い、人々の健康維持・増進・回復に寄与すべく、広く社会に還元できる人材の育成にも尽力する。

- 2) 2015年世界陸上競技選手権大会北京大会の米国代表チーム事前合宿については、千葉県主導のもと、本学、成田市及び佐倉市が連携して誘致した。コンソーシアム（県・市・大学の連携）による誘致実績は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた新たなスタイルであり、同様の形式での誘致活動を今後も積極的に展開していく。

《産学官連携について》

- 1) 文部科学省「研究成果展開事業 センター・オブ・イノベーション (COI) プログラム」において、本学は、(株)ニッピ、(株)日立製作所、東急不動産(株)、(株)花王と協働し「運動」を媒介に「スポーツ・運動」と「医療」の両側面から健康を維持・増進し、全ての人々をアクティブな状態へ誘導し、時間と空間を共有することで、「日本の誇るべき絆社会」の実現を目指す(2021(平成33)年度迄)。これら実装の場として、本学と連携協定を締結している千葉県内の自治体(白井市・成田市)に加え、愛知県東郷町でフィールド研究を行い、製品化、システム化など具体的な社会実装へ向かう取り組みを実施し、革新的なイノベーションを産学官連携で実現することを目指す。
- 2) 独立行政法人理化学研究所との連携共同研究において出願した特許については、国際出願(PCT)した特許について各国移行の後、発明内容と実用化の可能性を評価し、審査請求を行う。共同研究発表会については、研究と連携活動の進捗を踏まえ、より効果的な形式のもとで開催する。
- 3) 株式会社日立製作所との共同研究は、全件今年度で終了し、共同研究の成果の論文発表を促していく。
- 4) 花王株式会社とは、共同研究を進捗させるとともに、更に技術説明会を開催し、新たな共同研究テーマを選定し取り組みを進めていく。

《他学との連携について》

- 1) 国立研究開発法人医療基盤・健康・栄養研究所、国立大学法人鹿屋体育大学との連携協定に基づき、更なる人的交流を進めるとともに、共同研究を推進し、教育研究活動の活性化を図る。
- 2) 東京藝術大学とは、連携協定に基づき、引き続き、イベント「Summer Arts Japan」等を共催し、連携・協力を進める。
- 3) 順天堂医院では、新病棟の竣工により、建築に関する共同研究は各グループの研究の総括を行っている。基礎研究部会は今後も研究を継続していく。感染環境制御 RG では透析病棟等の室内環境の測定を建替前から行っており、新病棟との比較が可能となる希少な研究データの蓄積が進んでいる。また、共同研究の成果を新病棟に導入していることから、技術検証を行うなど今後の発展が期待できる。

《国際交流について》

- 1) 英語版 HP の更新作業を進めたことから、海外からの照会数が増加し、その結果として短期研修受入数が200名を超えるまでになった。こうした外部からの関心の高まりを受け、JUIC教育委員会においても、今後、教職員や学生の国際交流に関する事項について、教育の質と受入学生の質を維持するため、各受入講座における受入条件について考慮していく。また、国際レベルでの科学研究や共同研究に関する事項について、国際交流の観点から積極的に関

第8章 社会連携・社会貢献

与していくことを目指す。

《各学部及び研究科における社会連携・社会貢献活動について》

- 1) 大学院医学研究科では、引き続き、ホームページや募集要項、研究科説明会等において、社会人入学者の増加に向けた周知を図る。また、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の設置コースについては、補助終了後も大学院のコースワークや授業科目として開講することとしている。連携大学院については、大学院生の研究指導のみならず、本学と連携機関の共同研究への発展の可能性も視野に入れ、一層の連携強化を図る。
- 2) スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科では、社会連携協定を締結した自治体と合同で公開講座やシンポジウム・学術講演会・スポーツイベント等の行事を積極的に開催するとともに、地域の小学生を対象とした、陸上・サッカー・体操・バレーの各教室を継続して開催することで地域に貢献していく。更に、中高齢者への健康・運動指導やオリンピック・パラリンピック参画プログラムへも積極的に参加していきたい。
- 3) 医療看護学部・大学院医療看護学研究科では、公開講座・オープンスクールを継続して開催するとともに、支援が必要な子ども・高齢者・在宅患者・被災地等への学生ボランティア活動、自治体との連携協力による講演会・防犯活動・調査研究活動等を通じて、地域住民の健康増進、保健衛生に貢献していく。
- 4) 保健看護学部では、三島市との連携協働協定に基づいて、地域との連携が学生教育に活かされる仕組みづくりを進めていく。

②改善すべき事項

《社会連携について》

- 1) 特に、キャンパス周辺に連携自治体が複数あるスポーツ健康科学部では、連絡協議会の中で共通した課題の共有や連携を図れるよう調整していく。

《産学官連携について》

- 1) 独立行政法人理化学研究所との連携共同研究の実用化については、がんバイオマーカー特許情報を秘密情報保持契約下に診断薬メーカーに開示し、診断薬の開発を目指す。論文発表については、引き続き共同研究発表会を開催し、共同研究者間の情報共有と研究促進を図るとともに、研究者との研究相談等を通じて、論文発表を促していく。
- 2) 株式会社日立製作所との連携共同研究については、新たなテーマの探索を行い第2ステージの共同事業の創出を目指す。分科会体制は企画会議に集約し、連携活動を推進して行く。
- 3) 花王株式会社との連携では、連携推進体制を強化する。

《国際交流について》

- 1) 新たな宿舎の確保・効率的な案内方法の構築、日常生活のサポートといった、受け入れ環境の一層の改善を関係各所と調整していく。
- 2) 順天堂医院医療情報センター病院機能管理室、医療安全推進部感染対策室とも連携し、留学生受入前の予防接種抗体値の照会、健康状態や身だしなみといった最低限守らせなければならない事項を明確にし、留学生に指示する機会を設定する。
- 3) 病院来訪者については、見学施設や引率者の有無によっても求められる要件が微妙に異なることが想定されるが、国際基準の医療の質と患者の安全を担保するためにも、一般的な要件を設定・来訪照会の時点並びに当日の見学開始前に示すような機会を設けるようにする。

第8章 社会連携・社会貢献

- 4) 留学生・外国人研究者が離籍した後のフォローアップの強化として、従来の各講座・研究室との情報共有に加え、離籍する留学生・外国人研究者から直接今後の進路を聞き取る機会を設けて、メーリングリストの更新に努める。またそのメーリングリストを活用し、年に数回本学の近況報告ができるようにする。

《各学部及び研究科における社会連携・社会貢献活動について》

- 1) 大学院医学研究科においては、連携大学院との共同事業について、社会人学生の受入に留まらず、共同研究の実施等、事業内容の更なる拡充・発展に向けた検討を行なう必要がある。

第 8 章 社会連携・社会貢献

4. 根拠資料

根拠資料No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
資料 8-1	総務 8-1	順天堂ホームページ 「情報公開(基本情報)」 「各種方針」 「社会連携・社会貢献に関する方針」 http://www.juntendo.ac.jp/about/information/policy.html
資料 8-2	社連 8-1	学校法人順天堂社会連携推進室運営規程
資料 8-3	研戦 8-1	順天堂大学産学官連携ポリシー
資料 8-4	研戦 8-2	順天堂大学研究戦略推進センター管理運営内規
資料 8-5	臨支 8-1	順天堂大学臨床研究支援センター運営内規 (既出 資料 7-18)
資料 8-6	臨支 8-2	順天堂大学医学部附属順天堂医院臨床研究支援センター管理運営規程 (既出 資料 7-19)
資料 8-7	臨支 8-3	順天堂大学革新的医療技術開発研究センター管理運営規程 (既出 資料 7-20)
資料 8-8	総務 8-2	連携協定締結先一覧
資料 8-9	国交 8-1	順天堂大学国際交流センター運営規程
資料 8-10	国交 8-2	順天堂大学 国際化ビジョン
資料 8-11	総務 8-3	各学部・研究科の地域社会・国際社会への協力方針
資料 8-12	研戦 8-3	順天堂ホームページ 「センター・オブ・イノベーション (COI) プログラム」 http://www.juntendo.ac.jp/approach/collaboration/coi.html
資料 8-13	ス 8-1	学校法人順天堂と国立大学法人鹿屋体育大学連携協定書
資料 8-14	ス 8-2	順天堂大学と国立研究開発法人医療基盤・健康・栄養研究所連携協定書
資料 8-15	臨支 8-4	順天堂大学と理化学研究所が包括的基本協定
資料 8-16	臨支 8-5	順天堂大学と日立が包括的な産学連携の協定を締結
資料 8-17	臨支 8-6	順天堂大学と花王が産学連携の研究包括契約を締結
資料 8-18	総務 8-4	学校法人順天堂と東急不動産株式会社が包括連携協定を締結
資料 8-19	社連 8-2	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会における大学連携 「2016 年度活動実績報告書」
資料 8-20	総務 8-5	平成 28 年度 事業報告書 (既出 資料 2-2、資料 4-3-50、資料 7-21)
資料 8-21	臨支 8-7	臨床研究支援センター月例会議資料 2017 年 3 月教育・研修室
資料 8-22	再編 8-1	学校法人順天堂と学校法人早稲田大学との共同研究に関する覚書
資料 8-23	再編 8-2	次世代環境医療研究会組織図
資料 8-24	再編 8-3	共同研究契約書 (エコ技術)
資料 8-25	再編 8-4	共同研究契約書 (高層病院の安全)
資料 8-26	再編 8-5	共同研究契約書 (病棟の避難)
資料 8-27	総務 8-6	学校法人順天堂と学校法人女子美術大学が連携・協力に関する基本協定を締結

第 8 章 社会連携・社会貢献

根拠資料No.	各部署の資料整理No.	資料名称
資料 8-28	総務 8-7	順天堂大学と星薬科大学が学術交流に関する包括的連携協力の基本協定を締結
資料 8-29	総務 8-8	国立大学法人電気通信大学と順天堂大学との学術連携交流協定書
資料 8-30	総務 8-9	電気通信大学・順天堂大学・星薬科大学による学術連携交流協定締結
資料 8-31	総務 8-10	順天堂大学と立命館大学が学術交流協定を締結
資料 8-32	総務 8-11	理化学研究所およびカザン連邦大学と協力覚書を締結
資料 8-33	総務 8-12	順天堂大学と岡山大学が連携・協力に関する包括的協定を締結
資料 8-34	総務 8-13	順天堂大学と明治大学が包括協定を締結
資料 8-35	総務 8-14	順天堂大学と東京藝術大学が連携・協力協定を締結
資料 8-36	総務 8-15	Summer Arts Japan2016 ～ 順天堂大学 × 東京藝術大学 ～
資料 8-37	総務 8-16	コンサート・シンポジウム「それぞれの美 Sports Arts Science」～ 順天堂大学 × 東京藝術大学 ～
資料 8-38	総務 8-17	昭和第一高等学校との教育連携協定締結
資料 8-39	総務 8-18	神田女学園高等学校との教育連携協定締結
資料 8-40	国交 8-3	大学協力協定締結状況
資料 8-41	国交 8-4	講座・研究室を通じての紹介が可能な海外研修施設一覧(2016年版)
資料 8-42	国交 8-5	5th International Academic Joint Symposium, 2016 Juntendo University-Peking University
資料 8-43	国交 8-6	東京医科歯科大学 順天堂大学 節分の会 案内
資料 8-44	国交 8-7	平成 28 年度 表敬訪問・行事一覧
資料 8-45	国交 8-8	外国人短期研修受入数の推移(過去 5 年間)
資料 8-46	国交 8-9	短期研修者の所属機関(国/地域)の多様化
資料 8-47	総務 8-19	各学部・研究科・附属病院における社会連携の取組み
資料 8-48	総務 8-20	順天堂ホームページ 「日本医学教育歴史館」 http://www.juntendo.ac.jp/jmehm/
資料 8-49	社連 8-3	社会連携推進委員会議事録
資料 8-50	臨支 8-8	臨床研究支援センター月例会議資料 2017 年 3 月連携推進室
資料 8-51	国交 8-10	第 85 回国際交流センター教育委員会議事録
資料 8-52	医 8-1	平成 28 年度 地域枠学生ユニット説明会(平成 28 年 7 月)
資料 8-53	医 8-2	平成 28 年度 地域枠学生の卒前・卒後報告会(平成 28 年 11 月)
資料 8-54	院医 8-1	大学院医学研究科委員会議事録(平成 28 年 6 月)
資料 8-55	ス 8-3	親子スポーツ教室(酒々井町・印西市) 打合せ記録(平成 28 年 5 月)
資料 8-56	ス 8-4	平成 28 年度 順天堂大学生涯学習公開講座(親子スポーツ教室) アンケート結果
資料 8-57	医看 8-1	平成 28 年度 自治会との連絡会議 議事録
資料 8-58	社連 8-4	社会連携推進室ホームページ http://www.juntendo.ac.jp/cooperation/index.html
資料 8-59	臨支 8-9	BMC_Cancer29_16_760_2016

第 8 章 社会連携・社会貢献

根拠資料No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
資料 8-60	臨支 8-10	第 4 回理研・順天堂共同研究発表会ポスター
資料 8-61	臨支 8-11	Magn_Reson_Med_Sci15_4_416-421_2016
資料 8-62	臨支 8-12	共同研究成果報告会 2016 年度プログラム
資料 8-63	臨支 8-13	順天堂・日立包括連携ステアリング会議 2017 年 3 月抜粋
資料 8-64	臨支 8-14	第 2 回順天堂・花王連携協議会アジェンダ 2016 年 11 月 26 日抜粋
資料 8-65	ス 8-5	「掲載論文 Heritability estimates of muscle strength-related phenotypes:A systematic review and meta-analysis」
資料 8-66	再編 8-6	2014 (平成 26 年) 2 月 21 日 (金) 東京新聞「東京消防庁新基準適用 第 1 号 順天堂の新病棟で訓練」
資料 8-67	保看 8-1	三島市との協定書
資料 8-68	院医 8-2	大学院医学研究科委員会議事録(平成 29 年 2 月)